



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

市民ニーズに合った 公共施設の実現に向けて

地域の公共施設

地域の公共施設



学校



市民館



図書館



老人いこいの家



こども文化センター



スポーツセンター

公共施設は、**市民の日常生活に必要な様々なサービスを提供**しています。

地域には、**こうした公共施設が色々な場所に存在**しています。

地域の公共施設

多世代の交流イベントを開催したい！

地域での活動をするために
話し合いたい！

講座を受講したい！




作品の発表をしたい！

仲間と軽く体を動かしたい！


地域において様々な活動が行われており、**公共施設が活用**されています。
今後も、**公共施設はこうした活動の場としての役割**を果たしていく必要があります。

一方で、こんなことはありませんか？



特定の世代が
使っているので
私たちは使えない……

年齢により利用対象が限定されていて
利用したい時に利用できない
公共施設も存在します。



いつも予約が取れない……
使える施設はないかな……

利用率が高く、利用したい時に利用できない
公共施設も存在します。
また、利用率が低いにも関わらず、
利用可能なことが知られていない場合もあります。

地域の公共施設

また、こんなことはありませんか？

空いているようだけど
個人では使えない……



利用対象が団体に限定されていて、
利用したい時に利用できない
公共施設も存在します。



仕事後の夜に使いたいののに
施設が閉まっている……

利用可能な時間帯が存在し、
利用したい時に利用できない
公共施設も存在します。

多様な市民ニーズに対し、公共施設が利用できない・されていないという、
ニーズと現状に「ずれ」(ミスマッチ)が発生している状況です。

川崎市の公共施設等に関する状況

川崎市の公共施設等に関する状況

＜市が保有する公共施設の築年数＞

10年後の公共施設の築年数



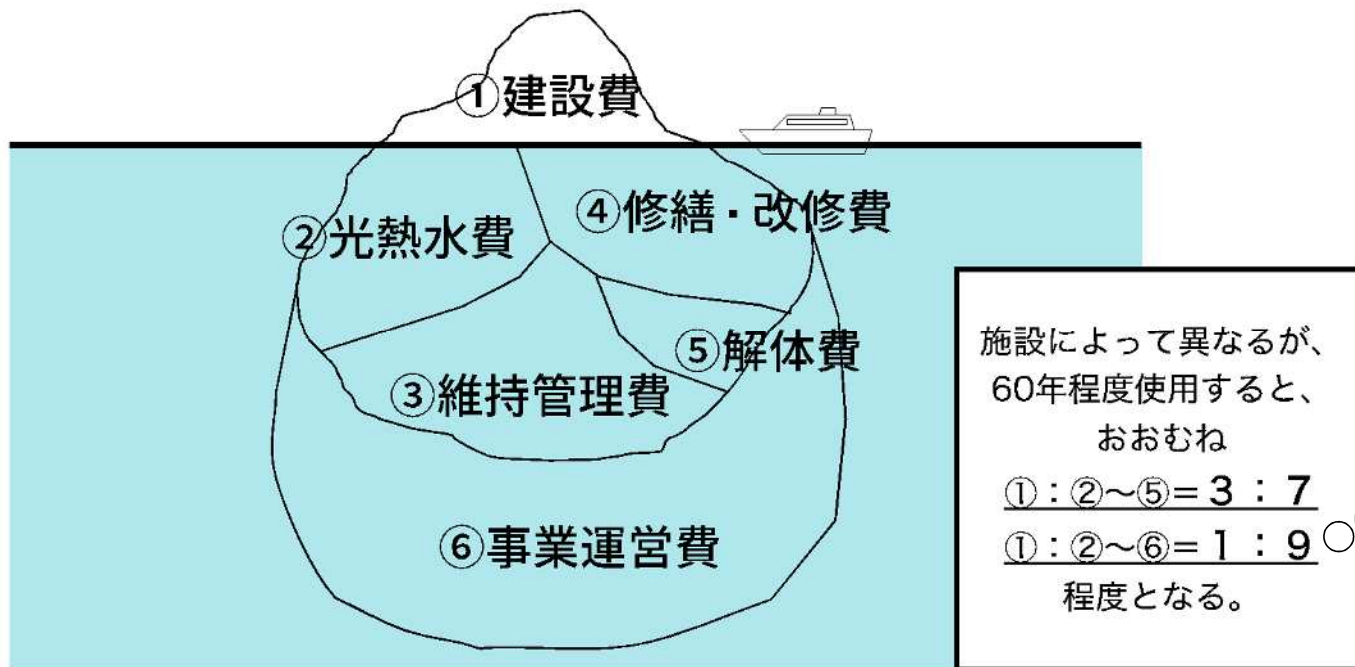
【イメージ】



市の公共施設は、10年後には**約75%が築30年以上**に達することから、**施設機能の低下**や**修繕費用の増大**など老朽化に伴う問題が懸念されます。

川崎市の公共施設等に関する状況

<公共建築物のライフサイクルコストイメージ図>

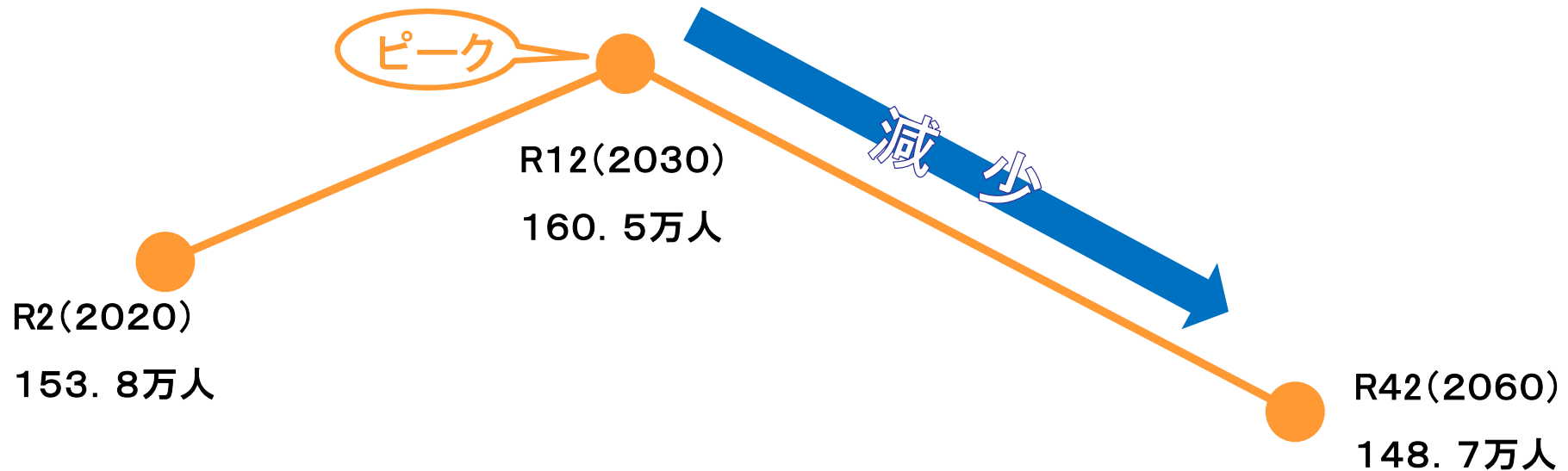


建築費が**10億円**の場合、
60年使用すると、
全体で**100億円**程度の
費用がかかってしまう。

建設コストは、**氷山の一角**です。建築物を使用する際には、
光熱水費や**維持管理費**等、**多くのコスト(ライフサイクルコスト)**が必要となります。

川崎市の公共施設等に関する状況

<川崎市の将来人口推計>

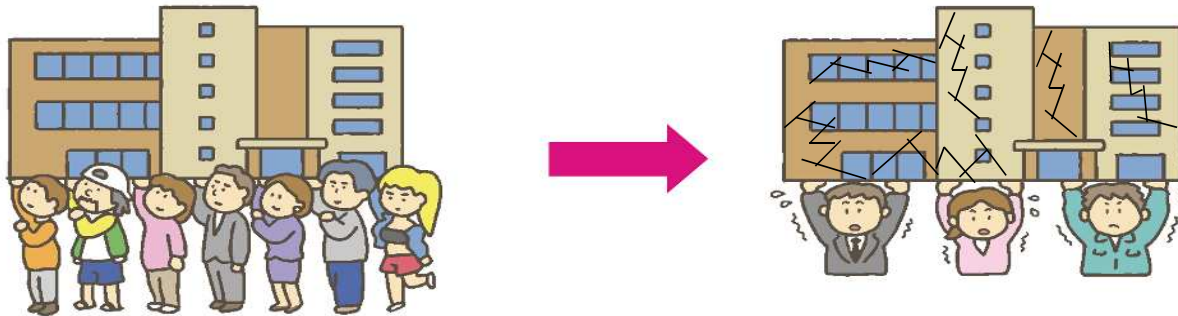


市の人口は令和12(2030)年頃における約160.5万人をピークに、
その後は**減少過程への移行**が想定される状況です。

川崎市の公共施設等に関する状況

建物の老朽化・建て替え ⇒ 維持管理・更新に係る費用の増

人口の減少への転換 ⇒ 税収入の減



人口減少に伴い、1人あたり m^2 数(公共施設の床面積÷人口)が増加し、老朽化した建物を維持管理・更新するための**市民1人あたりの費用負担**が増大

全ての公共施設を**これまでと同様に更新していくことは非常に困難な状況**です。

市民ニーズに合った公共施設の 実現に向けて

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて

- 市民ニーズと公共施設の現状に「ずれ」が発生している状況
- 全ての公共施設をこれまでと同様に更新していくことが非常に困難な状況にあります。

「ずれ」を解消し、ニーズに合った公共施設としていくためには、
「今ある公共施設」の使い方が**重要**と考えています。

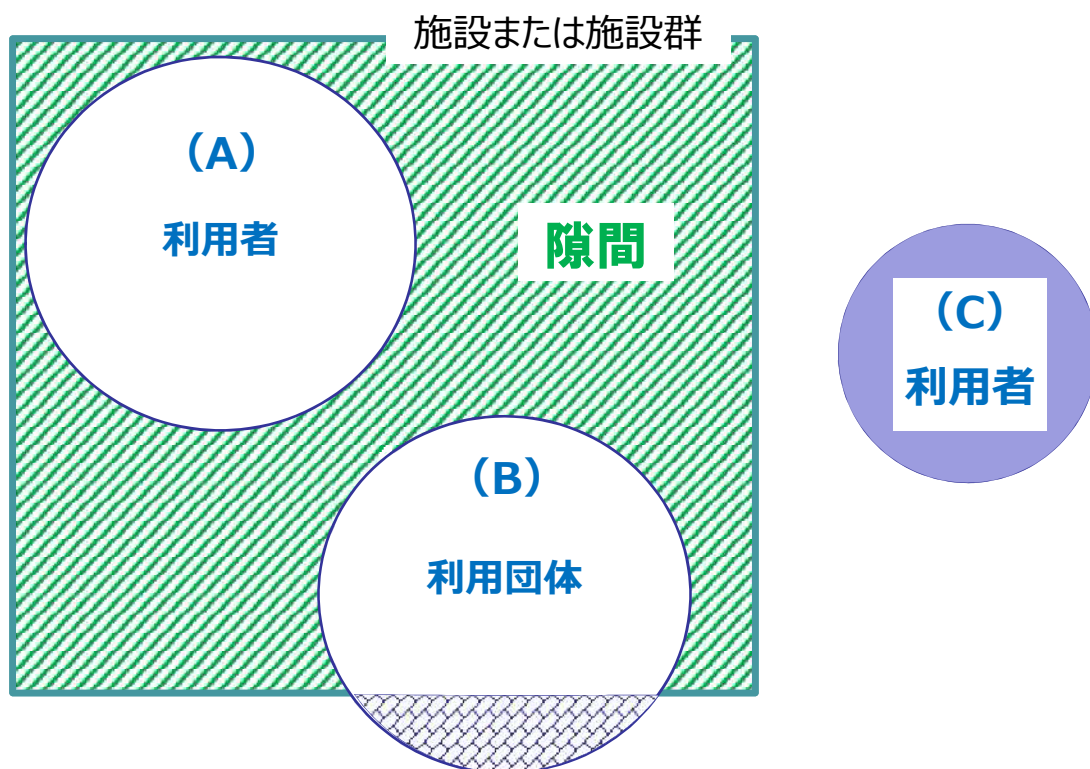
今ある公共施設を、**みんなで大事に賢く使っていくことが必要**と考えています。

「今ある公共施設を、みんなで大事に賢く使っていく」
とは、どういうことでしょうか？

そのキーワードとして、
「時間帯」「利用目的」「利用対象」
があると考えています。

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて

公共施設の現在の使い方イメージ



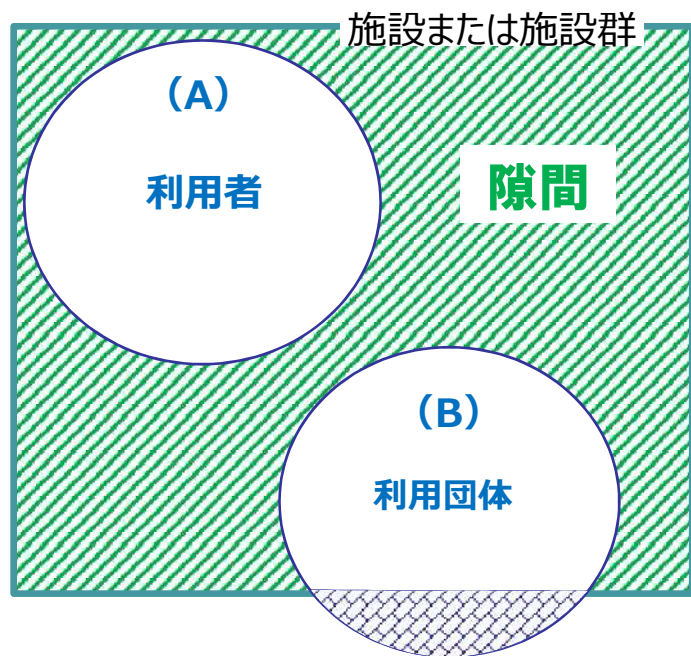
左の「施設または施設群」で受け止められる利用者 (A) は収まる一方、

- 利用可能な時間帯
(例) 午後 8 時までの開館時間
- 利用目的
(例) 年齢〇歳以上、以下
〇〇目的のみ使用可
- 利用対象 (団体か個人か)
(例) 登録した団体のみ使用可能

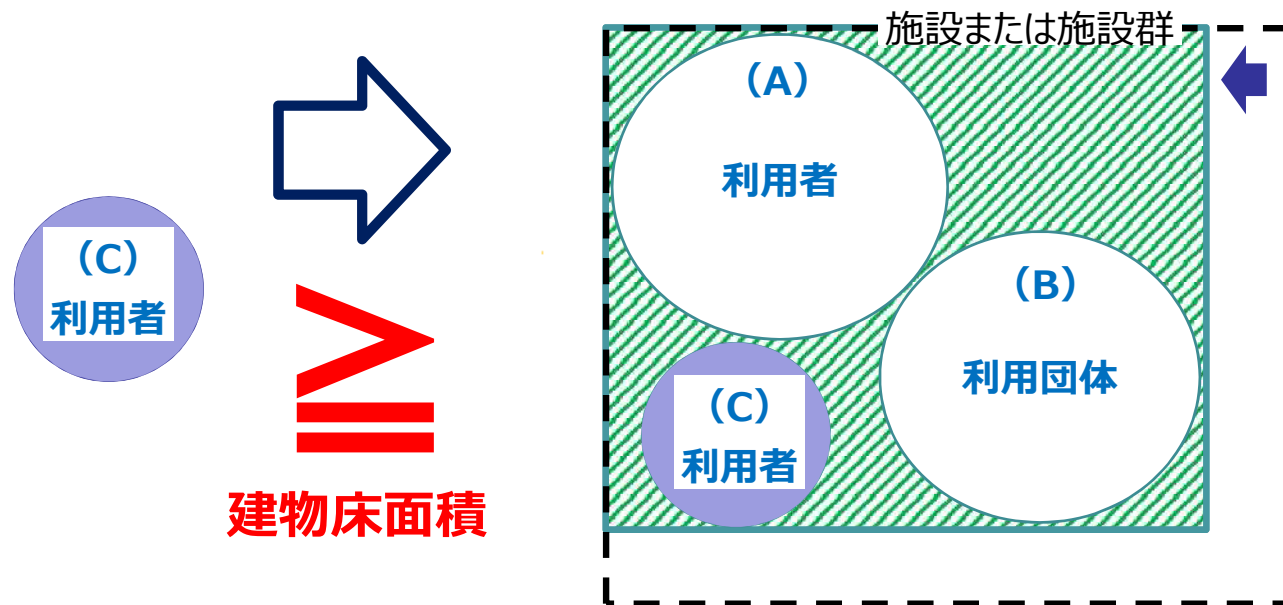
上記のような制限があり、収まらない = 受け止めきれしていない利用団体 (B) や利用者 (C) が存在し隙間が生じています。

市民ニーズに合った公共施設の実現に向けて

公共施設の現在の使い方イメージ



公共施設の将来の使い方イメージ



公共施設の使い方を変えることで、**現状以下の建物床面積**で、様々な利用者や利用団体を受け止めることが可能となります。

では、「公共施設の使い方を変える」とは、
具体的にどのようなことでしょうか？

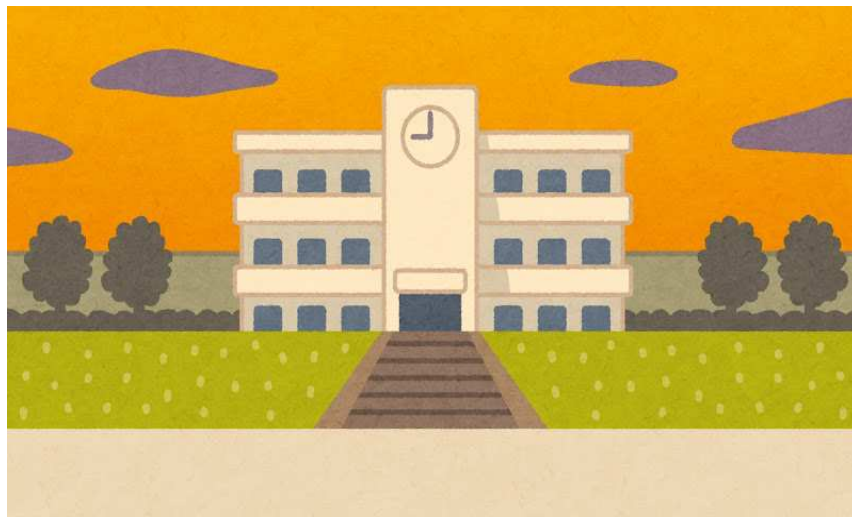
時間帯と利用目的



夕方、校庭を使っていないのであれば
ボール遊びをしたいなあ…



利用されていない時間帯(隙間)を活用することで、
ニーズに応えることが可能となります。



利用目的と利用対象

A施設

満室で利用不可

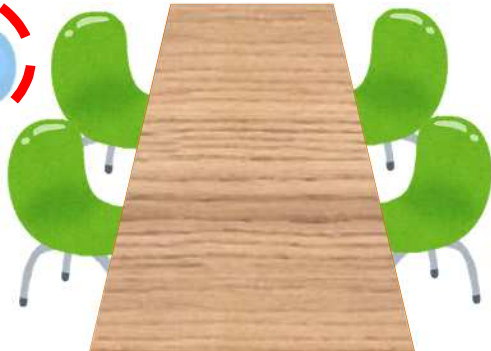
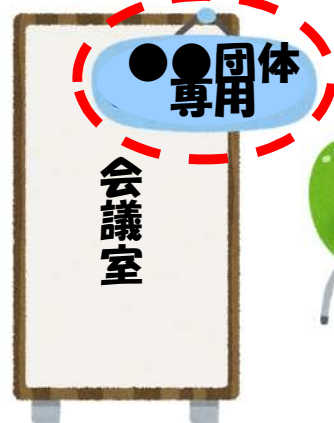


A施設は予約でいっぱい使えないから、
B施設の**団体専用会議室**を
個人でも使えたらいいのになあ…



利用者の制限を無くし、誰でも使えるようにすることで、
ニーズに応えることが可能となります。

B施設



B施設



利用目的

施設の複合化 施設の建て替えなどの際に、異なる施設を一緒にします

放課後に遊べる部屋が
もっとほしいなあ...



子ども
だけが
利用できる

老朽化施設A



いろいろな人と
交流したい...



高齢者
だけが
利用できる

老朽化施設B



複合化施設

みんなで
利用できる



メリット

- 管理費の削減
- 施設環境の改善
- 利用者の交流促進

など、相乗効果による
サービス向上が図れます。

特定の年代(子ども・高齢者など)が利用できる各施設を複合化することで、
みんなが利用できる施設となり、**ニーズに応える**ことが可能となります。

今後のスケジュール(たたき台)

